

世界連邦 Newsletter

2013年 1月28日

第615号

発行所



世界連邦運動協会

World Federalist Movement of Japan

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F

電話 (03) 6803-2114 FAX (03) 6803-2117

E-mail: info@wfmjapan.org Twitter: wfmjapan

URL: http://www.wfmjapan.org/

郵便振替 00190-6-29964

1部 100円 (年6回 奇数月1回 28日発行)

金融取引税の創設を目指そう 海部俊樹会長 年頭挨拶

世界連邦運動協会 会長 海部 俊樹



平成 25 年 (2013 年) の年頭に当たり、みなさまのご多幸をお祈りいたします。

世界連邦運動 (WFM) は、第二次世界大戦後、核兵器廃絶を目的として世界的に広がった平和運動です。

その目的は未だ達せられておりませんが、冷戦時代が終わり、NGO など市民社会の声の高まりが次第に力を持ってまいりました。今年、核兵器の非人道性に関するオスロ会議が 3 月上旬に行われます。わたくしどもは、核廃絶日本 NGO 連絡会等を通じて、日本政府が名実ともに核兵器廃絶に取り組むよう働きかけてまいります。

また東日本大震災の傷跡はいまだ癒えておらず、東電の福島第一原子力発電所の原発事故は、エネルギー行政のあり方を深く考えさせるものであり、未来の世代に禍根を残さないため、国民の熟議が必要です。

昨年夏のカナダでの WFM 世界大会で確認された通り、世界連邦運動の主なプロジェクトは国際刑事裁判所 (ICC) の加盟国を増やし、ローマ規程を充実することです。本年 1 月現在、締約国は 121 ヶ国です

が、アメリカ、ロシア、中国、インド、イスラエルなどの、軍事力を持ち紛争に関わる国々が未加盟です。これらの国の加盟を働きかけていかねばなりません。

シリアでは重大な人権侵害が続いております。このように自国民を守れないもしくは守ろうとしない国の国民に対して、国際社会が責任を負うべきであるという「保護する責任 (RtoP)」という考え方を広めるプロジェクトも WFM の重要な仕事です。ただし常任理事国の思惑が反映され、特定の国に対しての政策に利用されやすい懸念があるので履行には注意が必要です。

WFM が掲げている目標として国連の改革がありますが、その具体的方策として近年、国連議員総会 (UNPA) の創設に力を入れており、WFM 世界大会でもその比重が高まりました。国連は実は、各国の国益がぶつかり合う場であります。より民主的に民意を汲み上げるには、まずは、各国から選出されている国会議員が国連の代表として議論し、やがては世界議会の代表を選出するという仕組みが必要です。これが国連議員総会の創設です。ドイツや南米等で活発な運動が展開されているので、日本においても、ひきつづき世界連邦日本国会委員会等と協力して実現に向けて努力して参りたいと存じます。

世界連邦運動協会は国際連帯税の創設にも力を入れております。これは貧困や環境破壊などグローバルな課題を解決するために徴収する税金であり、特に当協会が国際連帯税フォーラムの一員として導入を目指しているのは、金融取引税です。EU ではドイツ、フランス、イタリアなどユーロ圏の 11 ヶ国が金融取引税を 2014 年にも導入の運びです。株式や債券、デリバティブを取引する際に、薄く広く課税されません。

以上のことを踏まえて、外務省への世界連邦実現に関する政策提言を今年度も行なってまいります。

このようにさまざまな課題に取り組んでおりますが、皆様にもこの運動の推進者として是非力を貸して頂きたいと存じます。

第34回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者鎌倉大会

神奈川県鶴岡八幡宮にて開催

世界連邦日本宗教委員会は、2012年11月28日、神奈川県鶴岡八幡宮にて「歴史に学ぶ—先人の叡智を未来につなぐ—」をテーマとする第34回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者鎌倉大会を開催した。全国さまざまな宗教団体から宗派の違いを超え、約340名が参加した。

開会式に先立ち、鶴岡八幡宮の舞殿で「世界平和の祈り・東日本大震災慰霊の祈り」が行われ、仏教、キリスト教、教派神道、イスラム教などの各宗教の代表者が祈りを捧げた。主催者からは、大会長・吉田茂穂鶴岡八幡宮宮司らが挨拶を述べた。

大会では、東北大学教授の鈴木岩弓氏が「震災からの復興にみる宗教の力」と題して基調講演を行った。以下はその概要である。



阪神大震災では宗教教団も救援活動に大きく関わっていたが、宗教色を隠し、ボランティア・カウンセラーの形で活動していた。

東日本大震災では宗教団体が堂々と宗教団体と名乗って活動した。

「心の相談室」で活動していると、私（鈴木氏）は、宗教学者であって、宗教

家ではないだけに、宗教家にしかできないことがたくさんあることを痛感する。

遺族としても、宗派にはこだわらないので、とにかくお盆までにきちんと火葬して納骨したいという思いがある。また、盆踊り・灯籠流しなどの祭りを再開することがコミュニティの再興につながる。

震災後、「海で亡くなったおばあさんは今、どうしているだろう」という相談があったり、「今、人をはねたけれど見ると誰もいない」という電話が警察にたくさんかかってきたりする。

こういうことはカウンセラーや精神科医が対応できることではなく、宗教者が行うべきである。

あるいは誰かが死んだ後だけでなく、死を迎える

人の所に宗教者が出かけていって声をかけたりすることも大切である。このような観点から布教によらずに心のケアを行う専門家として「臨床宗教師」という専門職を設置する必要性を感じる。将来どの病院、どの介護施設にも「臨床宗教師」が配置される社会の実現を望む。

基調講演にひきつづき、田中恆清世界連邦日本宗教委員会会長がコーディネーターを務め、鈴木岩弓



氏、小島美子国立歴史民族博物館名誉教授、川島秀一神奈川大学特任教授の三氏がパネリストとなり、パネルディスカッションが行われた。

閉会式では、大会宣言文が採択され、東日本大震災復興に関して、地域に根ざした生活文化はその土地の人々の精神的支柱であり、それを忘れて、物質的な復興ばかりに気を取られるのではなく、むしろ心の復興のありかたを考えることが大切であるとした。

(塩浜 修)



加古川支部 平和のつどい



12月1日、加古川市民会館小ホールにおいて、加古川支部主催『平和のつどい』を行いました。穏やかな日和に恵まれ、200名近い来場者がありました。2部構成で、第1部はポスター作文コンクールの支部表彰式、第2部は平和コンサートでした。

表彰式には多くの受賞者のみなさんがご家族連れでお越し下さり、盛大で和やかな式となりました。また、第2部は地元の若手ピアニスト・八重尾雄太さんと姫路で広く活動する声楽家・松本温子さんのジョイントコンサートで、「サウンドオブミュージック」メドレー、「“金子みすず”の詩による歌曲」、「さとうきび畑」等なじみやすい曲目が演じられました。今回が初顔合わせのお二人でしたが、初めてとは思えない息の合った楽しく、かつ格調高いステージを楽しんでいただけたと思っております。

加古川支部の『平和のつどい』は支部発足直後から行い、地域の皆さま、地元企業や団体の方々に支えられ17回を数えました。微力ではありますが、コツコツと地道な活動をこれからも続けていきたいと思っています。

(加古川支部 末松 淳子)

東北復興は日本社会を変えるか～新しいリーダー像と、新しい公共空間～

一般社団法人 RCF 復興支援チーム代表理事 藤沢 烈



世界連邦21世紀フォーラム主催のピースビレッジ第9回「東北復興は日本社会を変えるか」が12月8日、日比谷図書文化館スタジオプラスにて、藤沢烈氏を講師に迎えて開催された。

藤沢氏は大手外資系コンサルティング会社で勤務後、NPO、社会事業、ベンチャービジネス設立に特化したコンサルティング会社を経営。東日本大震災後は、復興支援に注力し、震災関連情報の調査・分析や、復興事業立案、コーディネートを行う「復興支援プロデューサー」として活動している。復興庁政策調査官、文部科学省教育復興支援員も兼務している。以下は講演の概要である。

この災害は日本を変えると誰もが感じた東日本大震災。早くも1年9ヶ月が経ち、復興は遅々として進まないように見える。

しかし一見何も変わらない被災地の現場の裏側では、様々な取り組みが進んでおり、高齢化・人口減少時代の地域づくり、情報技術とコミュニティの融

合、行政・民間連携によるまちづくり、経済発展でも社会貢献でもなく社会創造をめざす企業など、いずれもこれからの日本や世界が直面する、ある意味最先端のテーマに立ち向かっている。その中心を担っているのは、行政・NPO・企業のいずれにおいても30代の若いリーダー達である。

現段階ではハード復旧からソフト復旧に変化している。今必要なのは自立に向けた長期的視点の復興支援である。行政・起業・NPO 各セクター間をつなぐコーディネーター型リーダーが求められている。

日本と世界における東北復興の意味合いは、これがこれからの世界のモデルとなりうるということだ。皆さんが復興にこれから関わっていく上でのヒントを次に掲げる。

東北に関わっていく上で必要なステップは、まず情報を知ることであり、それは現地のフリーペーパーや地方紙、facebookやブログなどで手に入る。

さらに実態を知るには、現地の商品を買って事業者を応援したり、東北へ旅行や、ボランティアツアーに参加したり、現地NPOの活動に参加するのがよい。

現地に深くコミットしようとするならば、NPO法人ETICが東北で行なっている右腕派遣プログラムや、総務省の復興支援員制度を活用した、被災地の見守りやケア、地域おこし活動の支援などの「復興に伴う地域協力活動」に参加することをお勧めする。

(阿久根 武志)

「“震災復興”から見えてくる未来～世界連邦への道～」 木戸寛孝常務理事の講演（石川県連合会 2012 秋の講演会）を聴いて 石川県連合会理事長 平口 哲夫

世界連邦運動協会石川県連合会の2012年度秋の講演会は11月10日（土）13：30～16：00、金沢エクセルホテル東急5階で木戸寛孝氏（きど・ひろたか、世界連邦運動協会常務理事・NPO法人世界連邦21世紀フォーラム代表）を講師に招いて実施された。

木戸氏は1969年生まれ。慶応大学法学部卒業後、(株)電通に入社。電通を退社後、1999年10月から2003年3月まで千葉県香取市で農業に従事。2002年に常設された国際刑事裁判所(ICC)に日本政府が加盟するためのロビー活動を行い、2004年2月世界連邦国会委員会の事務局次長、2005年3月世界連邦運動協会の事務局次長に就任。明治の元勳・木戸孝允（たかよし＝桂小五郎）の直系6代目、第二次世界大戦時の内大臣・木戸幸一の曾孫に当たる。

講演の要約は、『世界連邦石川』第48号（2013年2月1日発行）に掲載、「石川WFM情報」<http://sophiruka.sakura.ne.jp/wfmi/>にもPDF版がリンクされるので、詳しくはそれをご覧ください。本稿では、この講演を聴いての感想を述べることにする。



上記「講演の要約」では、講演内容が「私と世界連邦運動」、「まず国際刑事裁判所から」、「新しい世界観が必要」という三つの章にまとめられている。

木戸氏が講演を日本の近代史から説き始めたのは、ご自身の出自によるだけでなく、世界連邦運動が世界の“廃藩置県”をめざしており、また、曾祖父がA級戦犯で無期懲役の判決を受けた東京裁判と、ナチス・ドイツを裁いたニュルンベルク裁判との延長線上に2002年オランダのハーグに設置された常設の国際刑事裁判所があるからだ。この国際刑事裁判所に日本政府が加入するようロビー活動を始めたのが、木戸氏が世界連邦運動に係るきっかけになった。

私(平口)は考古学が専門であるが、高校で日本史と世界史を学んだだけでなく、1960年代に中央公論社から刊行された『世界の歴史』と『日本の歴史』の全巻を高校生から大学生にかけての時期に読んだ。古代だけでなく近・現代にも大いに興味を持ったのは、1945年生まれで生後100日目にB29爆撃機編隊による空襲を“経験”しているからである。しかも木戸氏とはふた周りも年上だから、講演関係の歴史的事実についての知識は持ち合わせている。そういう点では、生半可な歴史知識で現代の問題を考えがちな若い世代に多数参加してもらいたかった。もちろん、若くない参加者にとっても、木戸氏の講演は問題を改めて整理するのに役立ったに違いない。

1986年11月のソ連チェルノブイリ原発事故、同年ゴルバチョフ大統領が先導した急進的な政治改革、1989年11月の“ベルリンの壁”崩壊、同年12月の東西冷戦終結、1991年12月のソ連崩壊、1992年2月のEU(ヨーロッパ連合)発足、これらの出来事が6

年の間に因果関係をもって劇的に生じた。講演の要約では省略されているが、2001年9月11日ニューヨーク国際貿易センターなどを襲った同時多発テロと、その後のアメリカなどによるアフガニスタン攻撃やイラク戦争も講演で取り上げられている。私(平口)が2003年3月に世界連邦運動協会に入会したのも、この一連の出来事がきっかけである。そして、2011年3月11日には東日本大震災が発生し、大津波による福島第一原発事故はチェルノブイリ以上の放射能汚染を引き起こした。この事故は、以前から大津波によって引き起こされる危険性が一部の識者によって指摘されてきたにも拘らず、適切な対応がとられなかったという点で人災でもある。1945年広島と長崎に投下された原爆は、直後の大虐殺にとどまらず、後々まで被曝者に放射線障害をもたらす、非人道的兵器の最たるものである。この核兵器が二度と使われるようなことがあってはいけないという切実な願いから、戦後間もない時期に世界連邦運動が生まれた。にもかかわらず、よりによってその日本において、原発による過酷事故が起きてしまったのである。

木戸氏によれば、震災による福島第一原発事故は既存の社会システムや常識の枠組みでは対応できない「リスクの象徴」であり、常識を超えた想定外の出来事であるだけに、既存の社会の枠組みに「創造的破壊」が起こり、「社会的変革を引き起こす契機」となる可能性がある。今や「国家の安全保障」から「人間の安全保障」へと軸足を移す必要があり、そのためには「主権国家の連合体である国連」を「世界法治共同体である世界連邦」へと進化させなければならない、という主張に大いに共感した。

京都支部 リンダ・H氏講演会



12月1日京都支部の勉強会を南禅寺龍潤閣にて、「ANPO」映画監督 リンダ・ホーランド先生をニューヨークから招き、「私のなかの日本と世界」と題して講演会を開催した。紅葉の残る美しい景色の中、約80名の参加者が集まった。

リンダ女史は流暢な日本語で、日本での生い立ちから、邦画の翻訳、映画監督としての経験を語った。

「小学校の授業で、先生が黒板に書いた“アメリカ 原子爆弾”の文字に日本のクラスメイトが一斉に振り返って私を見つめた。私の祖国は許されないことを行い、私は自分ひとりでその責任を負わなくてはならなかった。」と感じたことが記憶に強く焼きついた子供時代であったという。

日本映画に憧れ、やがて黒沢明・宮崎駿・深作欣二・大島渚・阪本順治・是枝裕和・黒沢清・西川美和等の監督作品映画200本以上の英語字幕の翻訳を手掛け、その功績は外務省から表彰された。

リンダ女史の中の日本と世界…その両方の視点には私達も学ぶことが多くある。

最新作「ひろしま 石内都・遺されたものたち」は今年夏頃、公開予定である。

(京都支部 中澤 敬子)

「ANPO」: 日本生まれのアメリカ人監督から日米安全保障条約(旧安保 / 新安保)のテーマを芸術の側面から見たドキュメンタリー。

各種委員会委員のご紹介

当協会は世界連邦運動協会規約29条に基づく財務委員会と、規約施行細則18条に基づく執行理事会の常設常任委員会が会務を分掌しており、平成24年度の委員は下記の通り。(敬称略)

※ 筆頭者が委員長

【理論政策委員会】

城 忠彰	平口 哲夫	荻野 忠則
高木 旭	塩浜 修	松香 光夫
西尾 理弘	犬塚 直史	稲垣 裕彦

【政治活動委員会】

日下部 禧代子 塩浜 修 平口 哲夫
井口 秀夫

【組織委員会】

宇都宮 憲爾 木戸 寛孝 三宅 光雄
楊 榮展 西山 敏和

【教育・広報委員会】

税所 涼子 松香 光夫 西尾 理弘
小塩 玄也 森 良秀

<ニューズレター編集委員会>

塩浜 修 伴 武澄 木戸 寛孝
荻野 忠則 平口 哲夫 阿久根 武志
杉浦 秀典 谷本 真邦 山崎 八九生
山崎 勝久

【国際委員会】

犬塚 直史 城 忠彰 石田 常
香西 俊雄 三好 鋭郎 楊 榮展
高木 旭 谷本 真邦 阿久根 武志

【財務委員会】

木戸 寛孝 楊 榮展 塩浜 修

2013年度総会は5月25日に行われます。総会では、各委員会から活動計画案を提出することになっております。

2月22日の執行理事会で第一次案を検討し、そこで出た意見をもとに第二次案を作り、4月上旬の執行理事会で議論します。各委員会におかれましては、上記日程を踏まえつつ、2月22日までに第一次案を作成するようお願いいたします。

世界連邦 Newsletter 第614号掲載の国会委員会総会記事について

世界連邦ニューズレター2012年11月28日号第1面に世界連邦日本国会委員会総会において、中野寛成会長に代わって鳩山由紀夫元総理が新会長(第15代)に就任したことが掲載されております。しかしながら、その原稿を印刷所に出した後、鳩山元総理が次期衆議院選挙不出馬を表明しました。

11月11日に入稿、11月21日に鳩山元総理がご勇退を正式表明した時には既に印刷が終了しておりました。国会委員会は現職国会議員によって構成されておりますので、改めて次期会長(第16代)を決める必要があります。また、総選挙の結果、役員の中に議席を失われた方が生じました。本年通常国会召集後、役員会を開き、これらの点について話し合う予定です。

皆様にご迷惑・ご心配をおかけ致しましたが、どうぞご理解をいただき、今後ともご指導いただければ幸いに存じます。

(国会委員会・事務局 塩浜修)

本部と支部などの動き

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------------|---|
| 1月8日 | 豊中支部新年会 アイボリーホテル | 2月15日～2月18日 | 第41回世界連邦推進全国小中学生ポスター作文コンクール優秀作品展 東京都庁南展望室 45F |
| 1月12日 | 21世紀フォーラム かものほし村田さやか氏講演 | 2月16日 | 同上表彰式 新宿NSビル 3F 3H会議室 |
| 1月12日 | 旭川支部 新年会 | 2月22日 | 第4回執行理事会 |
| 1月13日 | はちどりクラブ主催 日下部理事長講演会 | | |
| 1月18日 | 北海道 教職経験会員の集い エルプラザ 2F | | |

第41回世界連邦推進全国小中学生ポスター・作文コンクール優秀作品展のご案内

- 【日時】2013年2月15日(金)～2月18日(月) 午前9時30分～午後5時
初日は12時から。最終日は午後3時まで展示。 ※祝祭日は午前10時から午後5時。
- 【展示作品】ポスター入選作品：文部科学大臣賞 特賞 湯川スミ賞 入賞 佳作
作 文：文部科学大臣賞 特賞 湯川スミ賞
- 【場所】東京都庁第一本庁舎 45階南展望室（東京都西新宿2-8-1）
「JR新宿駅」（西口から徒歩約10分）、都営地下鉄大江戸線「都庁前駅」



表彰式 2013年2月16日(日) 午後2時
新宿NSビル 3F 3H会議室（東京都新宿区西新宿2-4-1）

文部科学大臣賞
新居浜市立南中学校3年
川口 理沙さんの作品

世界平和と環境問題
世界連邦をテーマに
都庁南展望台で開催！

編集後記 ★皆様の地元での活動を幅広く紹介したいと思います。次号掲載分については2月末までに原稿をお寄せください。（塩浜）

★本年も何卒、世界連邦運動をよろしく願いいたします。地元選出の議員に国連議員総会創設賛同の署名を呼びかけるご協力をいただくと幸いです。（阿久根）

★自民党政権が復活しましたが、東シナ海の波頭は静まりそうにありません。それより、国会委員会の鳩山会長があまりにも任期が短かったのが非常に残念です。志のあった政治家だったので尚更です。（伴）

あなたも世界連邦運動協会の会員になりませんか

入会希望の方は、住所・氏名・電話番号・メールアドレスをお書きの上、郵送またはFAXにて下記の本部事務局へお申し込み下さい。

世界連邦運動協会 〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3F

電話 (03) 6803-2114 FAX (03) 6803-2117

普通会員／年額 5,000 円 維持会員／年額 10,000 円 賛助会員／年額 15,000 円